

小樽～運河と北のウォール街



北 北海道有数の観光地、小樽。小樽は明治から戦前にかけて、ニシン漁、道

内で採掘された石炭の積出港、ロシアとの交易のための商港として発展した。

多くの銀行、商社が支店を出したのが、色内町周辺。そこは「北のウォール街」と呼ばれ、現在でも当時の建築が数多く立ち並んでいる。

なかでも有名なのが、明治45年（1912年）に建築された日本銀行旧小樽支店だ。日銀本館本店を設計した辰野金吾の指導のもと、その弟子で多くの日銀支店を設計した長野宇平治、明治生命館の設計で知られる岡田信一郎らの手により設計された。煉瓦造りの2階建て。鉄骨、モルタル、コンクリートなど当時最先端の建材を使用し、明治時代の銀行建築の集大成といわれている。

平成14年（2002年）に日銀支店としての役割を終え、現在は「日本銀行旧小樽支店金融資料館」として公開されている。

もう1つ、小樽で忘れてはならないのは「小樽運河」だ。海上の大型船との貨物の運搬作業を効率化するために、水路をつくることが計画され、大正12年（1923年）小樽運河が誕生した。

運河沿いには、たくさん倉庫が建てられた。小樽の倉庫の特徴は、内側の柱や梁は木材でつくられ、外側は石造りの「木骨石造」だ。防火性に優れ、外壁の軟石（凝灰岩）が小樽近郊で採掘できたことから、



旧北海道銀行本店。
現在はワインカフェ & ショップとして人気



旧北海道拓殖銀行小樽支店。現在は美術館として公開



典型的な木骨石造倉庫の1つ、
北一硝子三号館内の北一ホール

日本銀行旧小樽支店。
現在は金融資料館として利用されている



多くの倉庫で木骨石造が選ばれたという。
大きな地震や空襲に遭わなかったことから、小樽には多くの歴史的建造物が残り、レトロ&ロマンチックな観光地として現在も人気を博している。

